

介護事業者の倒産、過去最多

M&Aによる経営課題解決

介護業界



トピックス

東京商工リサーチによると2024年、介護事業者の倒産件数は172件となり、前年比40.9%増に達し、過去最多となりました。特に訪問介護が81件、短所入所が56件と急増しています。

増加の主な原因は、介護職員の人手不足、介護ニーズの多様化や物価高、競争激化や基本報酬のマイナス改定など、介護業界の厳しい経営環境が挙げられます。介護事業者の倒産は結果的に介護難民が生じる可能性もあり、社会問題と言えます。地域に根ざした介護事業者は倒産や廃業などを避けるため、経営基盤の強化や経営の効率化などが急務になっています。

そういった課題解決に向けたソリューションの1つとなる

のがM&Aです。M&Aによってより大きい資本を持つ企業とパートナーシップ

を結ぶことで、経営基盤の強靱化や採用活動の強化、スケールメリットによるコストの低減、DXの推進による生産性の向上など、様々なメリットを享受することができます。各種課題の解決だけでなく、事業のさらなる成長につながることもできる可能性があります。

少子高齢化の進行に伴い、超高齢社会が本格的に到来する中、経営課題を解決できなければ25年も倒産件数の増加が懸念されます。介護業界は、これからの日本経済を支える業界の1つと言えます。介護事業者のM&Aは増加傾向にあり、一般的な経営戦略になりつつあります。厳しい経営環境に置かれている介護事業者の経営者の皆様には、事業成長の選択肢の1つとして、M

&Aについて情報収集だけでもいただきたいです。

(M&Aキャピタルパートナーズ企業情報部 課長 小沼航大)